

「名探偵コナンへの挑戦状」

総園長 宮下 智

彼はその日、夜中の二時に起きて隣の方の居室に入り、その壁に掲示してある支援職員との「年間料理計画表」をはがして、自分の居室に戻り、居室の入り口にその掲示を置き、そしてその上に鼻血のついたティッシュペーパーを置いた。彼が、夜中の二時に起きるのも普通ではないし、他のメンバーの方の掲示をはがしてくるなんていうのも普通じゃない。ましてや、その上に鼻血つきのティッシュペーパーときたら、まさに支援職員に対しての謎解き挑戦状だ。「ほら、名探偵コナンさん、この謎を解けますか？」といったところだ。

❖ ❖ ❖ ❖ ❖

入所以来五年の間、彼の生活パターンはほとんど変わらない。いつも閉められている居室の扉を開けて入室すれば、パソコンとTVの前に陣取る彼がいる。パソコンはYou Tubeでアニメを見て、TVは、CSのキッズチャンネルだ。そして会話はいつでも「おうち」、支援職員は「そうだよ、〇〇日に帰省だね。楽しみだね」、それで会話が終わってしまう。しかもその会話で彼は顔きもするし、ニコツともする。まるでそれで十分かのように。

それが自閉症スペクトラム者の暮らしだと言ってしまうえば、それだけのことなのだが、楽しみな帰省も大好きな外出も同じパターンが何年と続く。帰省と言えば、焼き肉に座光寺食堂での夕食、そしてお饅頭のおやつだ。動物図鑑を買って、iPodにお父さまに曲の入れ替えをしてもらい、お父さまが買った服を着て帰ってくるといった具合だ。支援職員との外出といえば、まずは飯田動物園だ。

もちろん少々の発信はある。トイレに衣類を流したり放尿したりと、いつも行動は派手なのだが、それは「面会や帰省がまだ決まっていないよ、早く決めてよ」だったり、「外出の内容がまだ決まっていないよ、早く決めてよ」だったり、支援職員の落ち度に対する苦情程度のものだ。

彼の暮らしはこれで一定の安定だ。過去には、他害や物損で精神科保護室まで経験している彼なのだが、服薬調整を経て、現在の一定の安定にたどり着いている彼であった。

❖ ❖ ❖ ❖ ❖

野沢和弘氏（毎日新聞）の著書「障がい者のリアル×東大生のリアル」の中に、目を瞬きしかできない、もう全身の中でそこしか動かすことができない筋ジストロフィーの方に、ある東大生が「もう一度生まれ変われるとしたら、あなたは、今の身体がいいですか？それとも定型発達の私たちのように動く身体がいいですか？」と問う場面が出てきます。もちろんそのゼミに参加している多くの方は「動く身体の方がいい」と答えると期待したのですが、その予想に反して彼の答えは、「今のこの動かない身体がいい」だったのです。そして、その理由が、私たちをまたびっくりさせます。「私の身体は今動かないけれど、ちゃんと心は動いているから」だと。そして、私たち定型発達の者たちが逆に問いかけられます。「あなたの心は確かに動いていますか？」と。瞬きを繰り返しながら、何人もが見守る教室で、五十音表を一字一字たどって伝えたこのコミュニケーションの内容は、厳しく参加者の心を突き刺したであろうことを想像させます。身体の動く、動かないは、全く幸せに関係ないのだと。心が動いてこそその幸せなのだ。

❖ ❖ ❖ ❖ ❖

彼の一定の安定は、外側から見れば確かに良かれと見える安定だ。しかし、「彼の心は動いているか？」と問われれば明らかにその答えは、何年にも渡って同じような暮らしをパターンのように繰り返しているわけだから、「動いていない」であった。

自閉症スペクトラムの方々には、障がい特性上、「心が動く」状況が苦手だ。「心が動く」状況に脳のワーキングメモリーがついていけないからだ。かといって、幸せをつかみ取ろうとすると心に動く心を動かさないようにしていれば、一生その幸せをつかみ取ることができないということになる。

だから、私たちはそそのかす。「どうだ？心を動かしてみないか？」と。彼の場合だったら、まずは食事。「給食以外にも好きなものを食べてみない？」というわけだ。彼は「ハンバーグ」と「唐揚げ」を選んだ。

コロナで温泉に行けないけど、学園の保護者会館で明星温泉をしてみないかと提案する。提案は続けざまだ。カラオケには行けないけど、温泉と同じように保護者会館でカラオケと同じようなことができるよ、と提案だ。それは皆のやっていないことを、あなたが望むなら、いくらでも準備しますよという個別的な

提案だ。幸せは一人ひとりみんな違うから、幸せの応援の仕方もちろん一人一人違う。彼は、明星温泉もカラオケ明星も十分楽しむことができた。

✧ ✧ ✧ ✧ ✧

こんな時、いつも彼から聞かれる言葉は、「〇〇〇」とか「〇〇〇」とかいう過去に利用してきた事業所の名前だ。〇〇〇を辞めたときのことが書かれた父親のブログを指さしたこともあった。支援職員は答える。「明星学園に居ていいんだよ、明星学園は自分の言いたいことを伝えても、またその伝え方がうまくいなくて、物をこわったり、人を押しちゃったりするときも、ちゃんとあなたが本当の気持ちを伝えることができるのを応援するところだから、追いつくなんてことなんてしない。自分の気持ちを伝えることは、わがままなんかじゃないし、悪いことじゃない。明星学園に居て一緒にあなたの幸せをかなえて行こう」と。

✧ ✧ ✧ ✧ ✧

そして次は、iPodに支援職員が新曲を入れる。おそらく十年来、父親との間でしてきたものだ。彼の選曲は絶妙だ。話すことができなくなってきたこのくらいは大丈夫という勢いだ。今では、ミュージックステーションの2021年上半期ヒットチャートのTV映像をちゃんとiPodで10位から順番に1位まで写真に撮ってあって、それを入れろというのだ。以前に父親に入れることを依頼していた曲は、ほぼ80年代、90年代のJポップで、おそらくそれは父親像、そして母親像の代表だったと思うのだが、そこからの分離を私たちに教えてくれているのだと思う。今風の若者が今風に聞く音楽をiPodに入れて聞いているのである。

と同時に進んだのが、おしゃれ領域である。常に発信は派手だ。テレビが壊れる、パソコンが壊れる、タンスに放尿する、両親から着いたばかりの荷物に放尿する、ずっと大切にしていたたくさんのぬいぐるみに放尿する…。

しかし、名探偵コナンも挫けちゃいけない。タンスに放尿は、きっと「父親が選んだ昔の服は、もういらなくなるな」と理解して、相談した。今までにない明るめのストライプのシャツを選んだ。両親からの荷物に放尿には、「本当に欲しいものは何だろうな？」と相談して、「帽子とバッグ」を選んだ。帽子はハット系、バッグは手提げだそう。これで放尿は止まった。

そして最後は、髪染めだ。冒頭の年間料理計画表と同じように、彼は他メンバーの髪染めの掲示をはがしてきたそうで、さっそく髪型と髪色の相談だ。

✧ ✧ ✧ ✧ ✧

彼の放尿は、昔の自分との別離だ。そしてその一方でなされるパソコンやテレビの破壊は、それに対する不安だ。人は誰でも変化を恐れる。そしてその変化を父親や母親が受け入れてくれるかを恐れる。それを乗り越えるのには、支援者からのたくさんのポジティブメッセージが必要だ。「それでいいんだよ」「それで正しいんだよ」「誰からも怒られないよ」「お父さんとお母さんとの関係は今までと変わらないよ」、あふれるばかりのポジティブメッセージシャワーが注ぎ込まれる必要があるのだ。

年間料理計画表の上に置かれた鼻血のついたティッシュペーパー。それは「僕のやりたいこと、間違っていないよね」「僕ってわがままな子じゃないよね」なんだと思います。この時から二ヶ月、支援職員にとびっきりの応援を受けた彼、先日のカラオケ明星で、今まで見たこともないような笑顔と、今まで聞いたこともないような声で、カラオケを熱唱していたといいます。

そして、これからも彼と名探偵コナンとの謎解きの戦いは続くのです。

WELCOME TO SATORU WORLD

障がい者支援施設明星学園における心のケア

<http://myojo-satoru.life.coocan.jp>

Facebook : <https://www.facebook.com/satoru.miyashita.1>